

琉球・沖縄 年中行事 Q&A

旧盆のカビアンジャー (紙灸具) について



●Answer
 沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
 堀依 龍照 (きえ りゅうしょう)

Q 昨年のお盆に、お義母さんがウチカビを燃やしたボールに重箱の中身を入れ、しかも玄関先に置いていました。食べ物を捨てていることにも驚きでしたが、汚れたボールはお客さまに対して失礼ではないでしょうか？ また、今年もやるのかと心配です。

(那覇市・Gさん)

A Gさん、沖縄の年中行事の良いところに気づかれましたね。お義母さまは、お盆のしきたりなど、お仏壇ごとの経験が豊富な方とお見受けいたしました。

【カビジン・炙る・カビアンジャー】

Gさんが目の当たりにされた、「ウチカビ(打紙)を燃やしたボール」は、丁寧な言い方に変えますと、「カビジン(紙銭)を炙ったカビアンジャー(紙灸具)」という表現になります。カビアンジャーとは、カビジン(ウチカビ)を炙り燃やす時に使用する祭具(ボールなど)のことをいいます。一般的には、金盞(かなだらい)という金物のボールの中に水を入れ、金網などで蓋をする形状となっており、地域・家庭により、水の上にアルミホイルをかぶせることもあります。

【カビアンジャーの水の意味】
 今から、20年前のエピソード

です。私が生まれた本土にはないカビアンジャーです。で、ウグワン(御願)に詳しいおばあちゃんに、ウスコー(法事)の席でご質問させていただきました。キミソリヨサイ(教えてください)。カビアンジャーにお水を入れるのはどうしてですか？ 即座におばあちゃん、「これはよく、畳を燃やさないための火災防止の意味であるわけよ」。へへ、さすが、沖縄の先人の知恵ですね」と私。その会話を隣で聞いていた20代のお孫さんから、「でもさ、おばあ、ワッターヤ(わが家)、フローリングどろ。畳ないでしょう」と突っ込まれてしまいました(笑)。

【カビアンジャーは井戸】

実は、カビアンジャーの中の水は、カー(井泉)という井戸から湧き出でる清水を表現していること記された文献にたどり着きました。この考え方から、昔ながらのカビアンジャーの蓋は、バシヨウやバナナ・ゲイン(すすき)などを使用し、縦3本・横3本(縦2本・横2本の地域・家庭もある)で井形(いがた)という井の字を組んでいます。たが、その形容は井戸の木製・竹製の蓋を表現しているのだそう。

さて、このカビアンジャーに重箱の中身を入れる慣習は、一見、食べ物を捨てているように思われがちですが、実

は、施餓鬼(せがき)という、無縁仏(むえんぼとけ)にも重箱のウサンデー(下げ膳)を食べさせてあげたいという、沖縄の旧盆固有(その他)の年中行事や法事でも行う地域・家庭もある)のしきたりと言われています。

【カビアンジャーを屋外に置く理由】

また、そのカビアンジャーを玄関先やウジヨ(御門)という門などの屋外の入り口に置く理由としては、

①施餓鬼の対象となる無縁仏は、ヤシチ(屋敷)やヤ(住宅)には入れないので、入り口付近で召し上がってもらうという説。

②ミージーチヌカンガナシー(御土地之神加那志・土地の神様)にも、ウサンデーを召し上がってもらうという説。

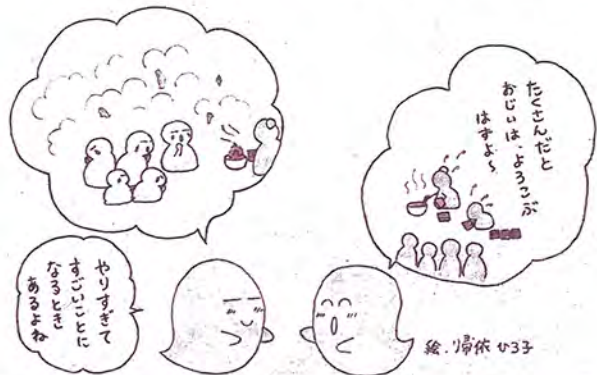
③沖縄の焼香には、家族・親族の身内焼香と、お客さまの一般焼香があり、カビアンジャーを玄関先やウジヨ(御門)という門などの屋外の入り口に置くことで、すでに重箱などのウサギムン(お供え物)をウサンデーして、カビジンも炙っているの、一般焼香の開始を告知しているという説、などがあります。

想像するに、お義母さまも、嫁がれて間もなくは、カビアンジャーをご覧になって、Gさんと同じことを思われたかもしれないね。私も初めて拝見したときは、やは

り、食べ物を捨てているとは思えませんでしたし、今となつては浅学、お恥ずかしい限りです(汗)。今年もやるでしょうか？ のご質問です。よね？ 多分、お義母さま、昨年と同じしきたりを行われることでしょう。

【お盆は、皿に分ける？】

「師のある人生は心を豊かにする」という格言があります。お盆という字が、ウサンデーを、皿に、分けるという意味からできているように、師であるお義母さまの沖縄しきたりの教養を、ウチナー嫁という立場から、お皿に小分けしていただきながら、やがてはGさんの心の教養となることでしょう。今年のお盆も、ありがたいウンケー・ウークイになりそうですね。



絵: 堀依 433